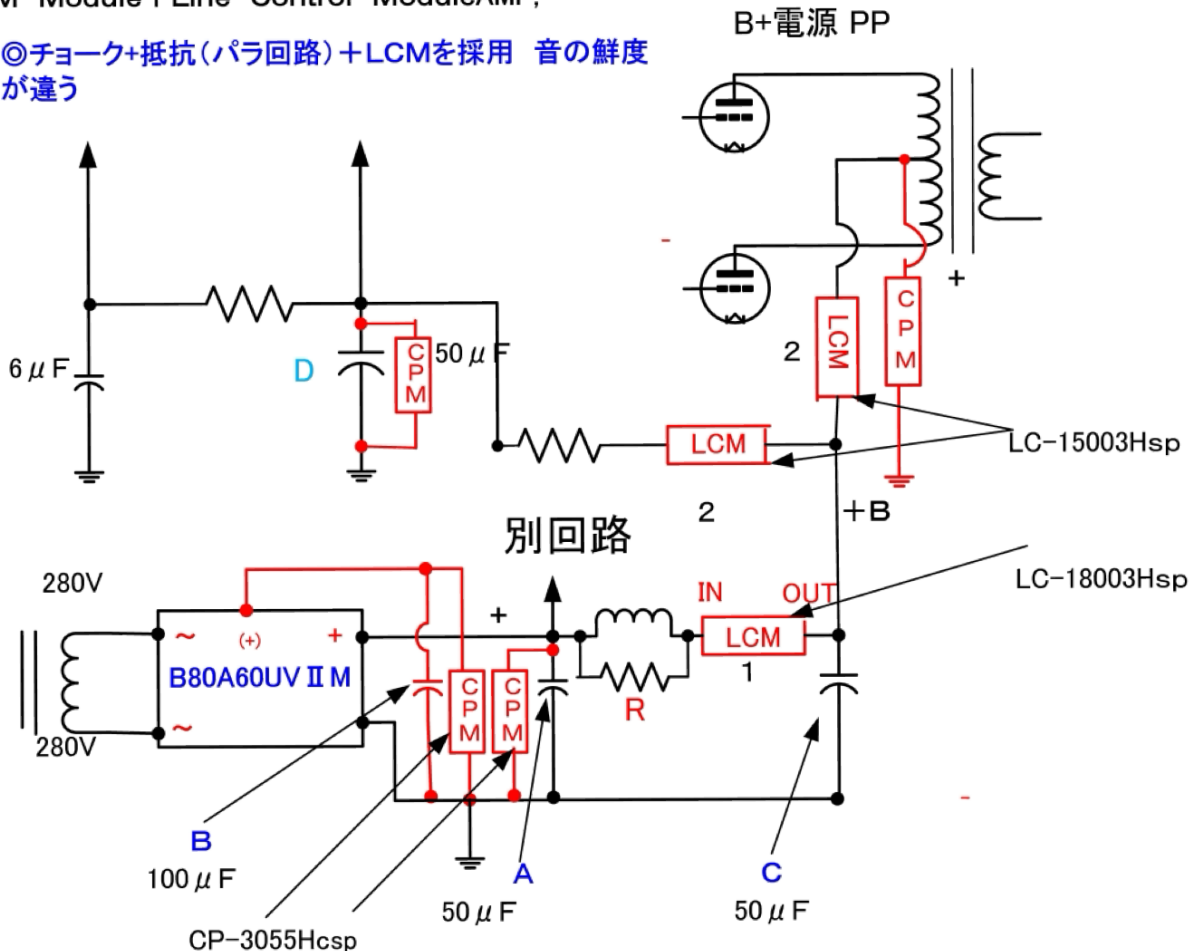


沼口工房 & A&R Lab コラボレーション企画、KT-90pp チョークレスAMP
音のスピード感、切れ味、(音の立ち上がり、さがり)を追求した、
21世紀の真空管AMPの最新の回路技術、音場の広がり、波紋回折に差が出ます。
CPM Module+Line Control ModuleAMP,

◎ チョーク+抵抗(パラ回路)+LCMを採用 音の鮮度が違う



- ◎ BはAの2倍(1.8~2.5倍)が最適、◎ CPMはCP-3055HCsp
- ◎ LCMはLC-18003Hsp, or LC-15003Hsp
- ◎ B80A60UV II M, or, (C80A130UV II,)

21世紀整流回路

音の立ち上がり、下がり追求した新回路技術

21世紀整流回路で音の立ち上がりは理論上 1msec早くなります、

真空管AMPの弱点:リップルを減らすため必ずチョークトランスを使用します、チョークは(C)の電流を引っ張る働きがあります、電源電流の息継ぎは、音の立ち上がりに影響を与えます、

対策:チョークと並列に(R)抵抗を入れます、(PPの場合は100~80Ω、シングルの場合2k~1kΩ,5W位ノイズのでないかぎり小さい方がよい)、チョークで遅れる電流を抵抗がカバーします、そしてチョークとコンデンサの間にLCM(LC-18003Hsp, or, LC-15003Hsp)を挿入、LCM1:コンデンサCにたまっている電流とチョークの作用を切り離す役目、LCM2:左右の影響をなくしL分のキックバックを防ぎます、LCM3:コンデンサCの急劇な電圧降下により影響をうけるコンデンサDの電圧降下を防ぎ、切り離された別電源になります。

CPMの働き:トランスLで発生する逆起電圧を回生することで、正確なSPの動きを担保します。

21世紀整流回路:閉回路構成なので、1msecの負荷電流欠落、切れる事による50Hzノイズの発生がなくなり、音声信号に50Hzノイズの付帯音が付かないため、音の広がり、波紋回折が変わります。

A&R Lab 代表 出川三郎
住所 〒257-0001 秦野市鶴巻北3-10-23
TEL、FAX 0463-76-9606
mail: sdegawa@mvd.biglobe.ne.jp